

高取小だより

令和7年10月3日



三本桜

第23号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
10月の目標：好きな本を見つけよう

彼岸花のように

10月に入り、ようやく秋めいてきました。夏休み明けから冬休みまでロングランとなるこの時期は、これまでの学びを更に深化させる時期です。たくさんの行事の中、人とのかかわりの中で、多くのことを吸収できる場があり、自己を表現していく多くの場があります。

学校における体験的な活動は、準備から当日に至るまで多くの時間を費やします。行事の精選が謳われる中、それでも実施方法に工夫を加えていきながら、行事や体験活動を実施しています。「生きる力」を身に付けていくためにもそこには大きな学びがあります。

今後、子どもたちの未来がメタバースと呼ばれるような仮想空間での生活が主となるようなものとなったとしても、根本には人としての生活の営みがそこにはあります。自身が経験した触った感触であったり、匂いだったり、体温だったり、音色だったり、さらには汗をかいたり、笑ったり、怒ったり。必ず人が感じたもの、体験したものがベースとなるはずです。無機質なデジタルな世界が訪れても、アナログな経験を積み上げているものは強いと思っています。10月からも引き続き、教科の学習と同様、体験的な活動にもしっかりと取り組んでいきます。

さて、稗田川沿いには黄色や桃色の彼岸花が咲き誇っています。やはり名のとおり「彼岸花」だと思っていたのですが、この時期には必ず開花します。他の草花と違い、彼岸花は本当に立派な花を咲かせることに小さい頃から感心していました。彼岸花が咲いているとき、そこに葉は見当たりません。によきによきと茎を伸ばし、花だけが咲いています。改めて見ると何とも奇妙な花です。彼岸花の葉は、花を咲き終えた後、地中から出てきます。他の草花が枯れてしまう冬に、にらのような葉を青々と茂らせ、他の植物に邪魔されることなく太陽光を独り占めして、たっぷりと光合成を行うのです。きっと、冬場に葉をみてもそれが彼岸花とは気づかない人が多いのではないのでしょうか。

彼岸花には地方によっていろんな名前があり、曼珠沙華や狐花などたくさんの名前があります。花と葉が時期を変えて現れることから「葉見ず花見ず」という名前もあります。

彼岸花は他の植物が休んでいる冬場に、たっぷり栄養を蓄えるからあんなにきらびやかな花を付けられるのでしょう。子どもたちには、実りの秋となるように、しっかりと花を咲かせた後は、彼岸花のように次のステージに向かってしっかりと力を蓄えていってほしいと願います。



【稗田川の彼岸花】

秋の夜長に・・・

読書は、学力を支える重要な役割を果たすだけでなく、豊かな心を育てる大切な栄養でもあります。それだけに子どもたちには一冊でも多くの本との出会いをしてほしいと思います。

とはいえ、最近は、スマホが広く普及し、調べものもスマホで検索すればあらゆる情報が手に入り、世界中の人とリアルタイムでつながり交流でき、買い物や支払い、写真や動画の配信等々、スマホがあればすぐに短時間で様々なことに対応できる便利なツールとなっています。もはや紙面で活字を読むだけでなく、電子書籍を活用し、画面を見たり、オーディオブックで音声を聞いたり、さらには倍速機能を活用し、短時間で見たり聞いたり、読書のスタイルも一昔前よりも様々な選択ができる時代となっています。



動画（音や映像）の魅力も否定はしませんが、本にしかない魅力もたくさんあると思います。映像や音などは、たくさんの情報が頭の中に入るのであえて想像力を働かせる必要はなく、いわば受け身の情報となります。しかし、読書は自分のペースで文字を追いながら、想像を巡らせたり、発見したり、自分なりに感じた世界を作り上げることができます。そんな楽しさを感じてほしいと思います。本を読めば心の中で色々な旅をすることができるし、色々な立場の人の考え方や生き方を知ることできるし、相手の気持ちを考えたり、多角的に物の見方ができるようになったり、何か重大な選択を迫られた時に、本で読んだことが生きてくるかもしれません。読書は、自分の心の奥に、じんわりとしみこみます。きっとスマホでは味わえない素敵な感動や自分なりに感じた本の世界が広がっていくと思います。秋の深まりと共に、素晴らしい本からの学びが深まることを期待したいと思います。

自分のペースで大丈夫

先日、2年生の子どもが、ジブリアニメ「となりのトトロ」で歌われている「さんぽ」という曲を口ずさんでいました。「さんぽ」の歌詞には、いろいろな道が出てきます。

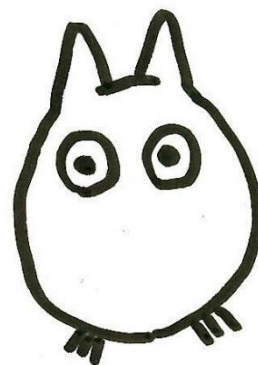
「坂道」「トンネル」「草っぱら」「一本橋」「でこぼこ砂利道」「下り坂」…「どんどんいこう〜」

主人公のメイちゃんみたいに元気にどんどん進んでいけるとよいのですが、人生はいろいろ、どの道を選んでも平坦な道はありません。この歌のように暗いトンネルに迷い込んだり、でこぼこ砂利道に足を取られたり、時にはくじけそうになったり、不安な気持ちになるのは誰もが通る道です。

夏休み明けから1か月が過ぎ、緊張していた心や体に、疲れが出る時期でもあります。少し立ち止まって周りの景色に目を向けると、また違ったいろいろな出会いや発見・アドバイスをもらえるかもしれません。

子どもたちには、「疲れた」「しんどい」、そんな思いをため込まないように周りの大人がさりげなく声をかけてあげたいものです。

「無理をしないで、自分のペースで大丈夫、一步一步歩んでいこうね！」



【小トトロ（絵；中井）】